

11/3(水)祝「一緒に学ぼう、在宅看取りの第一歩。 考えてみよう！それぞれの本当の想い／南関東ブロック」 が開催されました！

私たちは、いろいろなターミナルケースを想定し
そこにいるご本人ご家族、関係しているさまざまな職種の方々の想いをどれだけ受け止められるかが
とても大切であることを語り合いました。
その結果『考えてみよう！それぞれの本当の想い』というサブタイトルをつけました。



南関東ブロックは、メンバー8名とファシリテーター5名の総勢13名で参画！スクショがこれ1枚しかなくて…
ここから雰囲気感じ取ってください〜い!!!!!!!

1) 企画ものがたり

企画の段階で話し合ったことは、事例を中心に展開してグループワークするだけでなく、**感動をもたらすような内容にしたい！** その方が新人もベテランも他職種もそこからさまざまな学びがあるはず！と。ご本人・ご家族・関係者それぞれの立場で、それぞれの想いがあることを知っていただくことで、「やってみよう！頑張ってみよう！」に繋がっていくのではと考え、これを内容に落とし込んでようやく開催に漕ぎ着けることができました。そして9ブロック中唯一、基調講演で大柳夕香里様からご家族の立場で経験されたことを語っていただきました。そのリアルな体験談は、私たちでもなかなか聴くことのできない本音の部分の何うことができ、貴重な機会となりました。

続く事例発表では、訪問看護認定看護師の高橋光子さんによる「小児の看取りの事例」

訪問看護認定看護師の斎藤弓子さんからの「腎不全療養者の意思決定支援事例」を全員で共有。

その後、参加者75名が13グループに分かれて、2段階のテーマでグループワークを行いました。

慣れないブレイクアウトルームでのグループワークを、訪問看護認定看護師がファシリテーターを務め、

みなさん緊張しながらもグループの意見や感想、考えを発表してくださいました。

参加者のみなさま、ありがとうございました！

経験の有無、経験年数、職種に関係なく、それぞれに学びがありました。

ちょっとだけご紹介します。事例からの学びの深さが共有できます！

2) 参加者の声

- ・ 登場する人それぞれに思いや、役割があり、その支援をしていくには、色々な視点で見る力を養う必要があると学んだ。改めて寄り添った看護が必要と感じた。
- ・ 一人訪問で気が重くなっていたが、体験談や事例を聞き、**自分を顧みる機会となり自己肯定することができた。**
- ・ **お看取りの支援で悩んでいるのは自分だけではないと実感した。**
- ・ ご家族のお話されたことがすごく心に響いています。
ご本人や家族にとって信頼できる看護師になれるよう努力したいと思いました。
- ・ 在宅看取りを希望していても、**必ずしも看取りの場面が在宅でなくても良いという選択肢の提示や、軌道修正してあげてもいいんですね。**そのために多種多様ことに寄り添いながら、看護していく大切さを学びました。
- ・ 声掛けの大切さ「いつでもいいから、何でもいいから連絡ください」が心の支えになるのだと思い、そう考えると24時間対応は大変だが、いつも寄り添う気持ちを大切に、ご家族に「来てもらってよかった」「話せて気持ちが楽になった」と思ってもらえるような看護が出来るといいと思いました。（複数意見あり）

3) 企画運営スタッフの声

- ・ オンライン研修でグループワークをする難しさはありましたが、**当初の企画通り感動をもたらして、「在宅看取りをやってみよう、考えてみよう」と思える、良いきっかけづくりとしての研修ができた**と思います。
- ・ 事例が深かったので、グループワークの時間が足りなかったです。
1ケースをもっともっと深めるという方法でもよかったかもしれないです。
特にうちのように、**当事者さんが登壇してくださっているので、ここからだけでもたくさんの学びがあった**と思います。
- ・ 今後はこれで終わりではなく、ここからがスタート！続けて在宅看取りに関する取り組みをしていきたいと**企画者側も気持ちを新たに、みなさんといっしょに二歩、三歩と歩みを進めて参りたい**と思います。

4) MC、スピーチした当事者から

「最期まで家で過ごしたい、過ごさせたい」と希望されていた方でしたが、

療養生活の中でつらそうな様子を見て入院を考えたこともあった。つらそうな様子を見て、不安も大きくなり

どうしようと悩むこともあったが、看護師さんからの「何かあったらいつでも電話して」という言葉に安心した。

また「病気のこと以外の普通の話題で会話をしてくれることも、ほっとする時間だった」と。

「24時間対応することは大変だけれど、いつでも連絡できることが心の支えになるんだと思った」

という感想をたくさんいただきました。（司会 阿部直美）

我が子を自宅で見送りたいと希望した両親。

頻回な痙攣への対応に集中する母親に、私達は入院の選択肢を伝えました。

母親としての役割だけで、残り少ない命の我が子を慈しんで欲しいと願ったからです。

悔いのない看取りのために、訪問看護師は必要と判断した場合は軌道修正を行う役割も担うことを

お伝えしています。（発表者 高橋光子）

悩みながらも一生懸命関わり、私の心に残った事例でした。

初心者に分かりやすく伝わるように心掛けました。（発表者 齊藤弓子）



2021年度日本財団支援事業
在宅看取りを実践できる訪問看護師の育成事業

南関東
ブロック

一緒に学ぼう在宅看取りの第一歩

～考えてみよう

それぞれの本当の想い～

2021.11.3 水 9:00 ▶12:00

- 主催者：一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会 ●定員：100名(先着順)
 - 参加費：無料 ●対象：新人～5年目訪問看護師(他職種も可)
 - 開催方法：オンライン研修 (Zoomミーティングを使用)
- ※ご参加には、パソコンやタブレット、スマートフォン・PC・Webカメラの接続が必要となります。

この研修会について

本研修会は、在宅、在宅看取りの現場で日々奮闘されている、訪問看護師のみなさまを対象とした、「在宅看取りマスタースタッフの育成事業」の一環として実施される研修会です。
在宅看取りの現場で日々奮闘されている、訪問看護師のみなさまを対象とした、「在宅看取りマスタースタッフの育成事業」の一環として実施される研修会です。
在宅看取りの現場で日々奮闘されている、訪問看護師のみなさまを対象とした、「在宅看取りマスタースタッフの育成事業」の一環として実施される研修会です。

1 体験談 お看取りを経験されたご家族からの発信

事例提供①「親御さんの想いと親の役割り」

訪問看護認定看護師 高橋光子 氏

事例提供②「腎不全療養者の看取りから意思決定支援を考える」

訪問看護認定看護師 齊藤弓子 氏

3 グループワーク

まずは
初めの第一歩！

ざっくばらんに
仲間と話そう！

エキスパート
とも話そう！

お申込み・お問合せ先

お申込み：QRコードよりお申込みください。

締め切り：10月29日(金)まで

連絡事項：参加URLは参加申込書の登録メールアドレスに送付致します。

お問い合わせ先：一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会 南関東ブロック

社会福祉法人 株式会社 南関東ブロック

TEL: 03-5572-5150 (内線5100)・03-5274-1920(受付/相談)

E-mail: info@kaijohare.org



研修実行委員 伊藤みほ子(長野) 櫻井奈美(長野) 高橋光子(長野)
齊藤弓子(山梨) 鈴木孝子(神奈川) 阿部重美(神奈川)
鈴木志津江(神奈川) 三浦山由(神奈川)

2021年度 日本財団支援事業

「在宅看取りを実践できる訪問看護師育成事業」南関東ブロック

一緒に学ぼう在宅看取りの第一歩

～考えてみよう それぞれの本当の想い～

- 日時：2021年11月3日(水) 9時より12時
- 主催者：一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会
- 定員：100名(先着順) ●参加費：無料
- 対象：新人～5年目訪問看護師(他職種も可)
- 開催方法：オンライン研修 (Zoomミーティングを使用)



本会は「在宅看取りマスタースタッフの育成事業」の一環として実施される研修会です。

＜プログラム＞

- 9:00～9:03 開会のあいさつ
- 9:03～9:30 基調講演 体験談「お看取りを経験されたご家族からの発信」
大南夕貴 様
- 9:30～9:45 事例提供①「親御さんの想いと親の役割り」
yui訪問看護ステーション管理責任者・訪問看護認定看護師 高橋光子 氏
- 9:45～10:00 事例提供②「腎不全療養者の意思決定支援」
公益社団法人「訪問看護協会」訪問看護ステーション
訪問看護認定看護師 齊藤弓子 氏
- 10:00～11:30 グループワーク(各30分ほど 発表を各3グループから)
①発信や事例を受けてどのようなことを感じたか
②訪問看護師としてどのような視点で取り組みたいのか
グループワークのまとめ
- 11:30～11:40 開会のあいさつ
- 11:40～11:50 閉会のあいさつ
- 11:50～12:00 最終挨拶



【研修実行委員 南関東ブロック訪問看護認定看護師】

阿部重美(神奈川) 伊藤みほ子(長野) 櫻井奈美(長野) 高橋光子(山梨)
鈴木孝子(神奈川) 鈴木志津江(神奈川) 三浦山由(神奈川)